

聖書箇所:マタイの福音書26章26~30節

『目に見える恵みのしるし』

【1】 過越の祭り

- ・懐かしい味、忘れられない食べ物
- ・ユダヤ人にとっては「過越の食事」
 - 収穫開始のニサンの月（太陽暦の 3~4 月）の中頃の「過越の祭り」
 - 親戚・家族と共に「過越の食事」を囲む
 - 恒例の質問「きょうは どうして いつもとちがうの？」
 - 「過越」の出来事を思い起こす目的(出エジプト 12 章)
- ・本朝の聖書箇所は「過越の食事」(マタイ 26:17~18)の席が舞台
 - = イエスが十字架にかかれる前夜の「最後の晚餐」
 - = イエスの聖餐式制定の場面 (I コリント 11:23~26)



【2】 イエスの定められた聖餐式

- ・聖餐式と愛餐会のちがい
 - 「聖餐は、私たちの罪の赦しのために体を裂かれ、血を流されたことを覚え、感謝と悔い改めと信仰を持ってあずかる聖礼典である」(横浜緑園 卍教会規約第 5 条)
- ・イエスは何と語ったか
 - 『取って食べなさい。これはわたしのからだです。…みな、この杯から飲みなさい。…わたしの契約の血です。』」(マタイ 26:27~28)
- ・「わたしのからだ…わたしの血」の意味
 - 私たちの罪の赦しのために、ご自分の体を裂かれ、血を流すことによって「新しい契約」(エレヤ 31:31~34)を結んでくださるということ
 - ▷ 聖餐は「感謝と悔い改めと信仰を持ってあずかる」もの

【3】 目に見える恵みのしるし

- ・私たちが今日も聖餐式を行う理由
 - (1) 告げ知らせる：聖餐式を通して、主イエス・キリストの十字架の死の事実と意味を告げ知らせるため(I コリント 11:26)。
 - (2) 目に見える恵みのしるし：信仰を持ってパンと杯に与ることを通して、神の救いの御業を想起する。「聖礼典とは、聖なることがらの目に見えるしるしである…目に目えない恵みの、目に見える形である」(渡辺信夫訳『カヴァン 卍教綱要』IV・14:1)

▷ イエスはすべての人のためにご自分の肉を裂かれ、十字架上で血を流してくださいました。感謝と悔い改めと信仰を持って、目に見える恵みのしるしとしての聖餐に与ることが出来ますように。